

税金に代わる関税

先週、ドナルド・トランプは所得税を輸入品への関税に置き換えることを提案しました。首都ワシントン DC は大きな、そして集団的な嘲笑を發しました。一般的なアメリカ人は興味をそそられました。詳細は後述しますが、はっきりさせておきたいのは、この案は現在のシステムでは機能しないということです。つまり、アメリカは高関税をかけなければ所得税収を補えないし、高関税は世界貿易を停止させます。1930年のスムート・ホーリー関税が世界大恐慌を引き起こしたことを思い出して下さい。

しかし、だからといってこの議論を止めるべきではなく、出発点にすべきです。イーロン・マスクとスペース X をご存知でしょうか？ 特に、4 回目の打ち上げを行ったばかりのスターシップについてです。我々が目撃しているのは、反復開発のプロセスです。打ち上げのたびに、より遠くへ進み、より大きな成功を収めています。ヘンリー・フォードも自動車や組み立てラインの製造で様々な試練を乗り越えてきました。

民間企業では一般的なこの反復学習のプロセスは、政府には存在しないようです。作家のグレン・ハーラン・レイノルズが最近の Substack の投稿で紹介した例を挙げましょう。Ad Astra, Per Ardua と題する記事によると、スペース・シャトルは再利用可能なはずでしたが、実際にはそうならず、1 回の飛行に 10 億ドル以上かかりました。一方、マスク氏はブースターを再利用する方法を考え出すことで、1 フライトあたりのコストを 300 万ドルから 500 万ドルの範囲にまで引き下げました。

キログラム当たりのペイロード（積載量）を宇宙に運ぶコストは、シャトルでは 55,000 ドルでしたが、スペース X のファルコン 9 ではわずか 2,700 ドルと、20 分の 1 になりました。このコストは今後も下がり続けるでしょう。民間セクターが効率と進歩において政府を打ち負かすことができるのは、驚くべきことです。

そこで、所得税を廃止して関税に置き換えるというドナルド・トランプ氏の提案に話を戻しましょう。ベルトウェイ族（首都ワシントンの環状道路の中側、政治家や連邦政府職員を意味する。）のようにこの提案を見れば、まったくおかしな話です。あのポール・クルーグマン教授（『X』に出演）は、数字を並べ立てるのを我慢できなかったのか、同じ歳入を上げるためには関税を 133%、あるいはそれ以上に引き上げなければならないことを示しました。

少なくとも同教授は、1800 年代のアメリカは関税と物品税で資金を賄っていましたが、それは連邦政府の規模がかなり小さかった時代のことだと認めています。彼は、NASA ではなくスペース X のように政府を運営できないかと考えず、政府をそこまで縮小できると考える人はただの "無知" だと無礼な発言をしました。"無知" と言うことは、決してその人が間違っていることを証明することではありません。

クルーグマン氏は左派の人間ですが、右派の人間でさえトランプのアイデアはクレイジーだと言いました。大半はクル

ーグマン氏と同じ論理を使いました。ベルトウェイ族は、何かを見るには静的な採点モデルを使うしかなく、想像力はほとんどありません。彼らは新たな社会保障制度など想像することも出来ず、その官僚組織は凝り固まり、肥大化においては何十年もの勢いがあります。要するに生産性を高めようとか、反復的に学習しようというインセンティブがないのです。そうすることは、仕事と予算を減らすことを意味します。利益の創出によるインセンティブはまったくありません。政府は民間企業のように考えることはできないのです。

少なくともドナルド・トランプはベルトウェイ族とは逆に枠にとらわれず考えています。識者の言う通り、輸入品に関税をかければ、彼らの言葉を借りれば「莫大な」赤字が増えることとなります。トランプ氏がそう考えているかどうかはわかりません。しかし、反復的な思考を導くにはアイデアが必要なのです。SF 作家のスティーブ・スターリングはスターシップについてこう書いています。「反復的開発とは、最初から完璧なものを作ろうとしないことだ。まずは "十分なもの" を作り、壊れるまでそれを押し進め、壊れたものを直し、完全に機能するまで何度も試す。」

政府は反復的に学ぼうとし続けている、という見方もできます。しかし、数々の Great Society（偉大な社会を提唱した社会福祉政策）プログラムは、数世代にわたり生活保護を与え、明らかに永久的な貧困をもたらしました。不平等を是正するはずのプログラムは不平等を拡大し、公立学校制度（特に都心部）は失敗し、社会保障制度は 2033 年に資金が底をつき、連邦準備制度理事会（連銀、FRB）は帳簿上 1 兆ドルの損失を抱え、スタッフに給与を支払うために借金をしなければなりません。政府はあまりにも大きくなった為、スポーツ・イラストレイテッドや ESPN、ウェザー・チャンネルなどのメディア筋でさえ政治の話題を語らざるにはられません。

今日アメリカが抱えている問題は、1960 年代や 1930 年代に抱えていた問題と何ら変わりません。政府がどんどん大きくなっていくにもかかわらず、実際はもっと悪いとも言えるかもしれません。ですから、ドナルド・トランプのこの提案はとても新鮮なのです。即座に着地点を見定めるのではなく、この機会に政府の規模やどう賄っていくか議論してはどうでしょう。

ベルトウェイ族（ワシントンの政治家や連邦政府の職員）としては議論もせず、何もなかったかのようにただ前に進みたいのでしょう。「波風を立てるな」、「いつもと同じように同じことを分析しろ」と。一方、弊社は、この機会に、この考えを正面から受け止め、歴史と米国の現状に照らして議論するつもりです。

アメリカでは 1913 年まで所得税は導入されませんでした。しかし、物品税（売上税）や関税はありました。19 世紀から 1930 年まで、平時の政府の支出は GDP の 3% 以下でした。今日、連邦政府の支出は GDP の約 23% で、それに加え州政府と地方政府は GDP の約 14% を商品やサービスに費やして

います。政府の規則や規制を遵守するためのコストを加えると、政府は年間生産高のおよそ 50%を支出しているか、あるいは支出に加担していると推定されます。

民間部門にはそんな余裕はありません。連邦政府の赤字だけで年間 1.7 兆ドル近くに達しており、その終わりが見えないのです。国家の債務と年金債務は指数関数的に増加しています。何か壊れているのは明らかですが、官僚、ロビイスト、政治家、シンクタンクの職員は毎日出勤し、慣習やルールに従うだけです。たまに誰かが新しいアイデアを思いつくが、すぐに既得権益に押しつぶされてしまいます。

いくつか指摘したいことがあります。中国が既存の関税と世界貿易を利用して、あらゆる分野で市場を支配しているのは明らかです。アメリカは今日、医薬品、弾薬、バッテリー、その他多くの必要な品目を貿易なしで生産するのは難しいでしょう。貿易は経済成長にとってはプラスであると信じていますが、我々は現実主義者でもあり、すべての貿易相手国が我が国の最善の利益を考えているわけではないことも理解しています。国家安全保障を輸入に頼ることは、ほとんど語られることのないリスクです。

第二に、アメリカ人の約 40%が所得税を払っていません。過度な累進課税制となっており、税金の 97.7%を上位 50%の所得者が支払っています。言い換えれば、アメリカの半数は所得税を払っていない、あるいはほとんど払っていないのです。その結果、最高税率は（控除などとともに）、全員が税金を支払った場合よりも高くなる可能性が高いのです。自分は何も痛手を被ってもないのに、なぜ他人の税負担を気にする必要があるのでしょうか？ 税率は関係ないと言う人は、カリフォルニア州、イリノイ州、ニューヨーク州から去っていく人々や企業を見てみるといいです。

関税は消費者に転嫁されることから、消費者に対する税金なのです。つまり、消費税（売上税）の一種なのです。アメリカほとんどすべての州にあります。つまり、所得税を関税に置き換えるというこのアイデアは、消費税への一歩なのです。低所得者は高所得者よりも所得を多く使うため、この税金は逆進的だと言う人もいます。しかし、これは対処できるし、忘れてはならないのは、高所得者（またはその相続人）は最終的には貯蓄を使い果たすので、将来消費税を支払うこととなります。もし国民全員が納税するようになれば、有権者は政府の支出を注意深く見守るでしょう。

アメリカ連邦政府、州政府、地方政府の借金の大きさを見てみましょう。何兆ドルもの支出をしても貧困は改善されず、政府の非効率性も対処されていません。この事実から、このシステムが破綻していることは明らかでしょう。このサイクルを断ち切るには、ある種の反復的な変革プロセスしかないのかもしれませんが、新しい提案を即座に嘲笑するのは間違っていると考えます。

弊社は 1 ページ以上書くことはめったにありませんが、このアイデア（税金に代わる関税）があまりにも驚くほど新しいものだったので、書かずにはいられませんでした。アメリカは今こそ、財政支出とその支払い方法について議論すべきなのです。もしかしたら、ドナルド・トランプがその議論を始めたのかもしれませんが、これは皆にとっていいことに違いありません。

発表日時 (米国中部時間)	米国経済指標	コンセンサ ス	ファースト トラスト予測	発表結果	前回
6-17 / 7:30 am	ニューヨーク連銀製造業景気指数 - 6月	-10.0	-18.6	-6.0	-15.6
6-18 / 7:30 am	小売販売 - 5月	+0.3%	+0.4%		0.0%
7:30 am	小売販売（除く自動車） - 5月	+0.2%	+0.6%		+0.2%
8:15 am	鉱工業生産 - 5月	+0.3%	+0.3%		+0.3%
8:15 am	設備稼働率 - 5月	78.6%	78.6%		78.4%
9:00 am	企業在庫 - 4月	+0.3%	+0.3%		-0.1%
6-20 / 7:30 am	新規失業保険申請者数 - 6月 10日	235,000	235,000		242,000
7:30 am	新規住宅販売高 - 5月	1.370 百万	1.370 百万		1.360 百万
7:30 am	フィラデルフィア連銀製造業景気 指数 - 6月	5.0	0.8		4.5
6-21 / 9:00 am	中古住宅販売高 - 5月	4.090 百万	4.130 百万		4.140 百万

コンセンサス予測はブルームバーグ社が提供するものです。このレポートは、First Trust Advisors L.P.によって作成されたものであり、著者の意見を反映したものです。正確且つ信頼できる情報源とデータに基づいたものです。意見および将来の見通しに関する記述は、予告なしに変更される場合があります。この情報は、証券の売買の勧誘または売り出しを目的とするものではありません。